



東北大学

報道機関 各位

平成26年7月23日

東北大学高度教養教育・学生支援機構

東北大学高度教養教育・学生支援機構
発足記念国際シンポジウムの開催について

東北大学は、この4月、高等教育開発推進センター、グローバルラーニングセンター、国際教育院、教養教育院、高度イノベーション博士人財育成センターを統合し、新たに高度教養教育・学生支援機構（Institute for Excellence in Higher Education：略称 IEHE）を設置しました。学部・大学院まで学ぶ高度教養教育を開発するとともに、留学生など多様な学生が学び、確かな学力と人間性を培うキャンパスづくりを目指しています。

このたび、その第1歩として、発足記念国際シンポジウム「21世紀グローバル世界が求める人材像と教養教育」を下記のとおり開催いたします。このシンポジウムでは、本機構について紹介させていただくとともに、各方面で活躍されている専門家・実践家の方々をお招きし、幅広い視野から21世紀の人間像と教養教育の役割について議論いたします。

つきましては、開催について広く御周知いただくとともに、当日は御取材の上、番組、紙面等で紹介していただけますよう、お願い申し上げます。

記

日時：平成26年7月25日（金）10：00～16：30（受付9：15～）

場所：仙台国際センター2階大会議室「橘」

詳細、参加申込み：東北大学高度教養教育・学生支援機構ホームページ

<http://www.ihe.tohoku.ac.jp/>

取材を希望される場合は、下記お問い合わせまで御連絡願います。

(お問い合わせ先)
東北大学高度教養教育・学生支援機構事務室
担当：鎌田裕子、井上杏奈
電話番号：022-795-7551

【プログラム】

- 10:00～10:10 開会挨拶 里見 進（東北大学総長）
- 10:10～10:30 説明 花輪 公雄（東北大学理事，高度教養教育・学生支援機構長）
「東北大学高度教養教育・学生支援機構の設立と展望」
- 10:30～11:15 基調講演1 松浦 晃一郎（公益財団法人日仏会館理事長，一般社団法人アフリカ協会会長，元ユネスコ事務局長）
「21世紀を生きるグローバル市民をどう育成するか—大学教育に期待すること」
- 11:15～12:00 基調講演2 アン・フェレン（Ann Ferren, Senior Fellow at AAC&U, Former Provost of American University in Bulgaria）
「Why Liberal Education Matters : 21st Century Challenges」
- 13:00～14:40 パネル発表
桜井 勝延（南相馬市長）※インターネット中継
鈴木 基之（東京大学名誉教授，国際連合大学特別学術顧問，東京工業大学監事）
黒崎 伸子（特定非営利活動法人国境なき医師団日本会長）
- 15:00～16:20 総合討議
鈴木 基之
黒崎 伸子
アン・フェレン
松尾 基之（東京大学教養学部附属教養教育高度化機構長）
花輪 公雄
- 16:20～16:30 閉会挨拶 安藤 晃（東北大学高度教養教育・学生支援機構副機構長）
-
- 17:00～19:00 レセプション
(仙台国際センター内 レストラン ラ・フォーレ，会費 5,000 円：事前申込制)

(参考) 本機構の目標と特徴

第1に、本機構は、高大接続と入試、全学教育の開発と推進、国際化の推進、学生相談と学生支援、保健管理と健康指導、高等教育の研究と開発を行い、これらの成果を評価分析し、質的向上を図る各種の専門性開発活動を行う総合的な役割を果たします。大学においては、これらの機能は、研究科・学部・学科などの教育組織や学内施設に分散されています。しかし、学生は所属する教育組織のみで学習するのではなく、所属部局を超え、キャンパス全体で学習し成長します。世界的には「教育から学習への転換」といわれるこのパラダイム転換に対応するため、研究科・学部・学科や図書館など各種組織と連携し、大学一体として教育機能を高めることを意図しています。

第2に、本機構は、各種の組織とプログラムを統合し、新たな高等教育のモデル構築を目指すものです。機構の旧組織群では、「国際連携を活用した大学教育力開発の支援拠点」(教育関係共同利用拠点事業)、「グローバル人材育成推進事業」、「高度イノベーション博士人材育成プログラム」などの外部資金を獲得し、先進的でユニークな事業を進め、連携を図ってきました。これからも研究科の各種プログラムとこれらの取り組みの相乗効果により、世界水準の人材育成と高等教育のモデル構築を進めます。

第3に、高等教育のモデル構築の核心は、卓越性と多様性の追求であり、教育における卓越性の柱として、高度教養教育の開発と提供、多様性の柱として多様な学生のニーズに応える学生支援の開発と実施を目指しています。本学の高度教養教育では、従来、専門教育の予備教育や基礎教育として理解されがちであった教養教育のイメージを払拭し、専門力、鳥瞰力、問題発見・解決力、異文化・国際理解力、コミュニケーション力、リーダーシップ力の6つのキイ・コンピテンシーを育てるために、内容の高度化を図り、学士課程後期および大学院教育において提供することを目指しています。また、研究大学として、多くの研究者・大学教員を輩出する責任として、責任ある研究活動を行い、専門家の倫理を血肉化する共通講義の提供も大きな役割です。

第4に、本機構は、教員が専門に応じて所属する部門・室と、役割・使命に応じて配属される業務センターというマトリクス構造を採用しています。大学組織は、学問分野の構造を反映し、細分化された構造になるのが普通ですが、機構は専門分野を超えて、多様な教員が協力し、その力を発揮するように編成されているのです。

最後に、本機構の特徴として教員編成の多様性もあげられます。現在(2014年4月)、機構は特定事業で雇用された教員も含め、81名で構成されていますが、そのうち21名は外国人教員であり、国籍も、日本をはじめ、中国、韓国、カザフスタン、ロシア、パキスタン、アメリカ、カナダ、イギリス、フランス、ドイツ、デンマーク、アルゼンチン、ウズベキスタンと14カ国にまたがっています。専門は、哲学、歴史学、経済学、教育学、心理学、社会学、言語学、文学、数学、物理学、化学、動物学、運動生理学、地球科学、医学、農学など文理を含むあらゆる分野に広がっています。こうした多様性は、国内のどの機関にもないものであり、チャレンジングな機構の使命を実現する上で、協力と協働の大きな可能性を秘めたものと自負しています。

2014年7月18日

東北大学高度教養教育・学生支援機構 機構長 花輪 公雄